

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(3月26日～4月1日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。3月26日から4月1日までに5917件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは、13件ありました。いずれも野生鳥獣肉由来でした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(3月26日～4月1日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	26	0	—	栃木県	農産物	80	0	—
	畜産物	266	0	—		畜産物	476	0	—
	水産物	289	0	—		水産物	8	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	20	12	イノシシ		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	21	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮城県	農産物	59	0	—	群馬県	農産物	6	0	—
	畜産物	115	0	—		畜産物	521	0	—
	水産物	51	0	—		水産物	25	0	—
	牛乳乳児用食品	6	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	4	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—
茨城県	農産物	2	0	—	岩手県	農産物	0	0	—
	畜産物	278	0	—		畜産物	427	0	—
	水産物	39	0	—		水産物	32	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	20	1	シカ
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	1	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%

2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%
2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年12月24日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 1月21日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 1月28日	99.4%	0.6%	0.0%
2018年 2月 4日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 2月12日	97.9%	2.1%	0.0%
2018年 2月18日	100%	0.0%	0.0%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2018年 3月25日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 4月 1日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年3月平均	97.0%	3.0%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで145週連続(約3年)となります。福島県の263検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類は大熊町のナガレナメタガレイ(11 ベクレル/キログラム)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

①福島県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 福島県郡山市:イノシシ(180,200,320,210,220,770 ベクレル/キログラム)

イ. 福島県相馬市:イノシシ(1000 ベクレル/キログラム)

ウ. 福島県須賀川市:イノシシ(390,180,200 ベクレル/キログラム)

エ. 福島県柳津町:イノシシ(170 ベクレル/キログラム)

オ. 福島県桑折町:イノシシ(740 ベクレル/キログラム)

カ. 群馬県みなかみ町:イノシシ(140 ベクレル/キログラム)

福島県で捕獲された野生鳥獣については、すでに出荷制限措置が取られているため、市中には出回っていません。

②岩手県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア. 岩手県一関市:シカ肉(120 ベクレル/キログラム)

岩手県で捕獲された野生鳥獣については、すでに出荷制限措置が取られているため、市中には出回っていません。

(3)京都の空間線量(3月26日～4月1日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.037～0.039 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.044～0.047 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1

くらいになってきました。しかし0.1 μSvを下回るところまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1)福島第1汚染水 セシウム流出1日20億ベクレル 漁業影響なく産経新聞ニュースより>

東京電力福島第1原発の汚染水問題で、放射性物質セシウム137が今も外洋(原発港湾外)に1日約20億ベクレル漏れているとする研究結果を福島大学環境放射能研究所の青山道夫教授が28日、大阪府で開かれた日本原子力学会で発表した。

濃度は原発の南約8キロの福島県富岡町沿岸で海水1リットル当たり0.02ベクレル程度。漁業には影響がないとしている。

平成25年の1日約300億ベクレルから大幅に減ったが、流出は依然続いており、青山氏は、海水中のセシウムとトリチウムの分析から「汚染水源は溶融した核燃料を冷却した水で、建屋から海につながる流出経路があると推定できる」とみている。

炉心溶融(メルトダウン)が起きた1～3号機では溶融燃料冷却のため原子炉への注水が続いており、燃料に触れた水がセシウムやトリチウムなどを含む高濃度汚染水となって建屋地下にたまっている。

東電は、地下水が建屋地下の水と混ざって高濃度汚染水が増えるのを防ぐため、建屋周辺で地下水をくみ上げているほか、土壌を凍らせる「凍土遮水壁」を建設。海への流出を防ぐため海側に遮水壁も造った。

(2)福島県産品「価格」回復せず 流通調査、「買ったとき」未確認<福島民友より>

東京電力福島第1原発事故による県産農林水産物の風評払拭(ふっしょく)に向け農林水産省が実施した流通実態調査結果の概要が27日、分かった。他県産で需要を賄える品目については本県産を積極的に扱う理由を見いだせないのが現状で、依然として県産品の価格は震災前の水準まで回復していない状況が浮かん

だ。コメや青果物、畜産物、キノコ、水産物の5分類20品目について生産者や県内外の流通・販売業者らに聞き取りした。農水省は、県産品を不当な安値で仕入れて販売する「買ったとき」の事例は確認できなかったとしている。

品目別ではコメ、牛肉、高価格の贈答用モモの取り扱いが低迷。コメは小売りでの取り扱いが減少した一方、価格低下により値ごろ感が求められる業務用の扱いが増加した。

産地や安全性が意識されやすい牛肉は、定番商品としての扱いと価格が回復していない。モモは全国でも主要産地であることから扱いは回復しているものの、山梨県産、長野県産と競合する8月の価格差は大きかった。

一方、キュウリは本県産を除くと商品棚を維持するのが難しいため、多くの小売りで扱われ価格水準が回復、引き続き需要は高い。水産物は試験操業のため流通量が少なく、小売業者での扱いは限定的だ。

以上